

# 平成 20 年度施策評価表

① 総合計画	まちづくりの目標	1 章 緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち（都市環境の保全・創出）			
	施策（大柱）	4 節 廃棄物・リサイクル	H20実施計画事業費合計	3,842,528 千円	※「H20実施計画事業費合計」は、当該計画に主要な事業と位置づけられた事務事業について、各施策、各中柱でそれぞれ合計した事業費です。
	中柱	1 ごみ減量とリサイクルの推進	591,332 千円		
		2 適正処理の拡充	3,175,827 千円		
		3 し尿処理の充実	66,257 千円		
4 不法投棄対策の充実		9,112 千円			
施策に関係する所属	廃棄物対策課、リサイクルふれあい館、東部クリーンセンター、西部クリーンセンター、東部クリーンセンター収集事務所、浄化センター				

② 施策の概要	1) 基本方針及び施策の目的	<p>○ごみ減量・リサイクル意識の啓発と普及に取り組み、分別収集したごみの資源化を進める。</p> <p>○一般廃棄物最終処分場やし尿処理施設の整備を進める。</p> <p>○不法投棄の防止につとめる。</p>
	2) 施策の具体的な内容及び実施方法	<p>○ごみ減量とリサイクルの推進 ごみの発生抑制や排出抑制を進め、一般廃棄物処理基本計画の減量目標達成に取り組み。また、分別の啓発や集団資源回収団体への支援を行い、資源化を推進する。 ○ごみの適正処理 効率的な収集・運搬体制を整備し、市民の衛生的な生活環境を確保するとともに、ごみ処理施設の適正管理を行う。 ○し尿処理の充実 公共下水道の荒川右岸流域下水道の接続替えにともない、処理施設の整備を進める。 ○不法投棄対策の充実 パトロールを実施することで不法投棄を抑制し、あわせて不法投棄物の撤去を行う。また、県と連携し、産業廃棄物の不法投棄や不適正保管の監視指導などを行う。</p>
	3) 分野別計画、指針	○一般廃棄物処理基本計画
	4) 関連・類似施策	○1-1環境との共生 ○1-5環境保全 ○2-6下水道

③ 優先的に取り組む事業	5) 施策に対する市民ニーズ	『平成19年度所沢市市民意識調査』（20歳以上の男女、無作為抽出による2000人を対象とし、平成19年11月に実施。831人より回収。）における、全43施策についての市民要望の確認（複数回答可）の結果です。	要望者数	334 人	要望率	40.2 %	全施策中順位	4 位	分野中順位	1 位
	6) 施策に係る基礎数値									

項目名	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度
総ごみ量	t	132,718	132,847	127,407
資源化量（リサイクル量）	t	34,481	34,929	35,737
最終処分量	t	10,344	10,861	8,536
不法投棄行為の件数	件	1,979	1,667	1,387

事務事業名	成果指標名	指標の説明	単位	H19目標	H19実績	達成率%	将来目標
050407 集団資源回収実施団体報償金交付事業	集団資源回収率	集団資源回収量/市内の資源化紙類総回収量	%	80	72	90.0	
050413 (仮称) 第二一般廃棄物最終処分場整備事業	事業進捗状況			候補地抽出	候補地抽出	100.0	処理場建設
050417 し尿処理施設整備事業	事業進捗状況			基本計画及び基本設計	基本計画及び基本設計	100.0	施設建設

※「優先的に取り組む事業」とは、第4次所沢市総合計画・実施計画において、特に優先的に資源配分を行うとしたAランク事業のことです。H19年度でのAランク事業は、全体として67事業です。なお、この欄には、これらAランク事業の中で、「①総合計画一中柱」に位置づけられたものが記入されます。

指標名	説明	単位	基準値	H18	H19	H20	H21	H22	将来目標		
【5年後の目標】市民1人1日当りのごみ排出量	市民1人1日当りのごみ排出量を示す指標	g/日	年度	目標値	959.4	954.6	949.8	945.0		年度	
			実績値	969.0	968.0	921.0			実績値の拡大を目指す1	2	目標値
			達成率	99.1%	103.6%						945.0
【5年後の目標】リサイクル率	リサイクル施策の取組状況を示す指標	%	年度	目標値	24.8	26.5	28.3	30.0		年度	
			実績値	21.3	26.3	28.0			実績値の拡大を目指す1	1	目標値
			達成率	106.1%	105.7%						30.0
第二一般廃棄物最終処分場整備進捗率	第二一般廃棄物最終処分場整備状況を示す指標	%	年度	目標値	候補地抽出	候補地抽出	候補地抽出・推進計画	基本計画策定	基本設計等	年度	
			実績値	100.0%	100.0%				実績値の拡大を目指す1		目標値
			達成率	100.0%	100.0%						完了
不法投棄量	パトロール時の撤去量	t	年度	目標値	78,750	62,920	50,560			年度	
			実績値	62,920	50,560				実績値の拡大を目指す1	2	目標値
			達成率	125.2%	124.4%						

⑤平成19年度中に取り組んだ改革・改善点や、新たに実施した事業等、特徴的な取り組み

- 集団資源回収事業において、行政回収に代わる自治会・町内会による回収を推進した結果、新たに1団体2,300世帯が参加した。
- (仮称) 第二一般廃棄物最終処分場整備事業において、「庁内連絡会議」を設置し候補地を4箇所に絞り込んだ。
- 溶融飛灰の山元還元（資源化）を実施した。
- 一般廃棄物処理基本計画改訂に係る廃棄物減量等推進審議会の答申を得た。
- 新しい東部クリーンセンター収集事務所・東所沢エコステーションが完成した。

1) 平成19年度評価により明らかとなった課題、及び新たに認識された課題	現在の進捗状況				
集団資源回収事業において、予算の制約がある中で、可能な限り行政回収に代わる自治会・町内会による回収を推進していく必要がある。	<input type="checkbox"/> 課題の解決	<input type="checkbox"/> 予定以上	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に推移	<input type="checkbox"/> 状況変わらず	<input type="checkbox"/> 悪化傾向
(仮称) 第二一般廃棄物最終処分場整備事業において、候補地を選定し、地権者や地域住民及び市民の理解を得ていく必要がある。	<input type="checkbox"/> 課題の解決	<input type="checkbox"/> 予定以上	<input type="checkbox"/> 順調に推移	<input checked="" type="checkbox"/> 状況変わらず	<input type="checkbox"/> 悪化傾向
スラグの有効利用について、様々な方策を検討していく必要がある。	<input type="checkbox"/> 課題の解決	<input type="checkbox"/> 予定以上	<input type="checkbox"/> 順調に推移	<input type="checkbox"/> 状況変わらず	<input checked="" type="checkbox"/> 悪化傾向
し尿処理施設整備事業について、実施設計を行うにあたり、関係各課と協議・調整しながら進めていく必要がある。	<input type="checkbox"/> 課題の解決	<input type="checkbox"/> 予定以上	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に推移	<input type="checkbox"/> 状況変わらず	<input type="checkbox"/> 悪化傾向
	<input type="checkbox"/> 課題の解決	<input type="checkbox"/> 予定以上	<input type="checkbox"/> 順調に推移	<input type="checkbox"/> 状況変わらず	<input type="checkbox"/> 悪化傾向

2) 平成20年度における目標設定	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)
今期目標項目(何を)		
集団資源回収量。	前年度の回収量より約730トンの増加をめざす。	平成21年3月
(仮称) 第二一般廃棄物最終処分場候補地選定。	跡地利用及び並行利用を視野に入れた候補地選定を行う。	廃プラスチック類の処理方法の決定後、早急に選定する。

⑥評価(課題及び目標)

3) 今後の方向性(事務事業の重点化・効率化、実施手段の見直し、他施策との連携、市民との協働 など)

ごみの減量や資源化については、市民や事業者の意識や行動が重要であることから、広報やホームページ等を利用し、引き続き啓発活動を実施していく。  
排出されるごみについては、市による安定収集の上、適正処理を行うとともに、可能な限り資源化に努め最終処分場への埋立量を減少させていく。  
(仮称) 第二一般廃棄物最終処分場については、市民に対し施設の必要性や安全性を十分説明し、理解を得ながら早期に候補地選定できるよう進めていく。  
また、し尿処理施設についても同様に市民の理解を得ながら、早期に工事着工できるよう進めていく。  
なお、スラグの有効利用について、平成19年度は民間の事業者において実施していたが、今年度において事業者側の都合により実施できなくなってしまったので、今後は公共機関での安定的な有効利用を検討していく。

評価日 平成20年8月7日 記入者職氏名 環境クリーン部次長 神木 祐次